



大学 **松岡 敬興**
近畿大学
工学部教育推進センター 教授

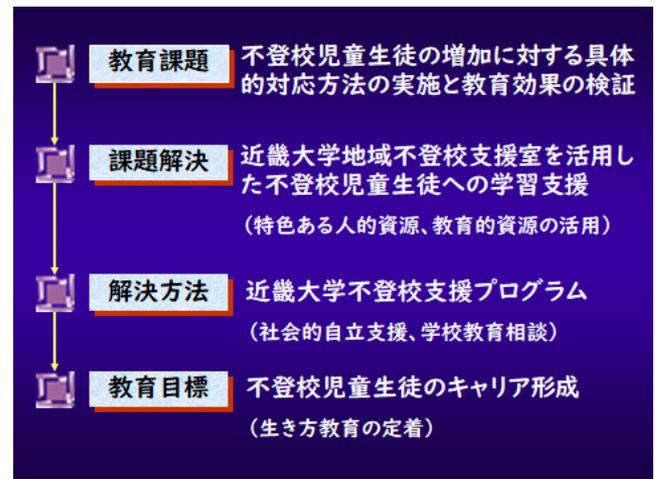
市担当課 ×
**学校教育部
指導課**

1 課題

2 概要

不登校児童生徒が増加傾向にあり、学校が抱える大きな教育課題の一つとなっており、不登校児童生徒への教育活動ができる受け皿が必要である。

様々な要因により不登校の状態にある児童生徒を対象に、近畿大学の人的資源、教育的資源（授業、施設や機器、機材）等を生かしながら、児童生徒が自主的に活動できる場を設け、社会的自立を促す支援プログラムを構築する。



不登校児童生徒数: 346,482人 (全国)

● 小中学校における不登校の状況について(複数回答)
+ 学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった (32.2%)
+ 不安・抑うつ等の相談があった (23.1%)
+ 生活リズムの不調に関する相談があった (23.0%)
● 1,000人当たりの不登校児童数
+ 広島県 (39.8人)
+ 全国 (37.2人)

出典: 文部科学省『令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要』、p.26, p.30(2024)

研究の概要

不登校児童生徒の実情と課題

3 到達目標・方法

- (1)不登校支援に関わる仕組みづくり
(先行研究の調査、先進地視察、近畿大学の教育資源の分析、不登校支援へのトライアル等)
- (2)教育実践による教育効果の検証
(定期的に本取組に携わる教職課程履修者、不登校児童生徒及び保護者を対象にアンケート調査等を実施)

今後の展望としては、不登校児童生徒に主体的な学びを促し、人と関わる機会を設け、多様な体験活動を通じて、彼らのキャリア形成（生き方教育）を支援することが期待される。また、近畿大学の教職課程履修者が彼らの学びをサポートすることで、教員として必要な資質・能力の向上を図る。さらに、スクールカウンセラーが保護者を対象に教育相談を行い、子育て支援にも役立てることを見込んでいる。